

<イントロダクション>

今、ここで、自分のいる部屋をご覧下さい。私たちの部屋は人工物だらけです。人工物は私たちの生活にかかせないものです。私たちは現代社会に生きる社会性を持つ現代人であると同時に、カラダは自然な生き物です。

私たちの環境の全てが、私たちのカラダを通じて、刺激として情報化され、絶え間なく伝えられています。私達は現代人として、人工物の刺激だけを日常的に受けています。本来、カラダは自然ですので、人工的な刺激だけでは相当のストレスを抱え込んでいます。人工的な刺激は聴覚・視覚を中心とし、慢性的な運動不足及び大量の公害とあいまって、私たちのカラダを刺激し続けます。これは、私たちは不眠症、うつ病、多動症、イライラとした精神状態につながります。もちろん、アレルギーの多発などの慢性疾患も例外ではありません。

自らの命を体感できないことは、コミュニティの崩壊によるコミュニケーション不足に伴い自己否定につながっていきます。自己否定は他者否定を招き、常に人にあたりちらす、人をけなす、自省ができなくなり、良好な関係性の構築が不可能になります。不登校・いじめからひきこもりに発展し、現在、中学・高校で問題になっているのはリストカットと異性を含めた他者及び薬物への強い依存です。これらは、最終的に、死を志向する体験を通じて、自らの生命を確認するために行うと言われています。これがやがて、先進国一高い自殺率へとつながっています。



<どうすれば、命を感じて、自分や他の人を受け入れ、尊重できるようになれるのでしょうか。>

私自身を創っているカラダは私たちの命をつないでいます。私たちのカラダは心がどのような状態であろうと、私を生かし続けようといつも働いています。つまり、カラダを通して、私の命が愛そのものであることを伝えています。

私たちのカラダの声に、心を傾けてみましょう。美しい山や森、海に出かけた経験はありませんか。青く透明な海や深い緑のおおう森の中にいるだけで、カラダはリラックスします。もし、何もせず、気持ちのいい夕暮れの海や大きな木の下に寝転がっていたら、眠くなるでしょう。それから起きてみると、カラダが少しだるくなっているか、回復し、心がゆったりと変わっているでしょう。本来、人は誰しも穏やかな自己(本質的な自分自身)を持ちます。わたしたちはカラダから命を感じることで、自分を受け入れ、穏やかになる事が出来ます。自分の命や自分自身を受け入れ、自分自身が愛そのものであるときついた時に、はじめて、自分以外の他者を受け入れる感覚と価値を持ち、自他の命を大切に尊重する態度をもつことが出来ます。以上の命に関わる感覚を倫理的感覚、価値を倫理的価値、態度を倫理的行動といえます。

わたしたちは、現代社会を生きるために、人工的な物質も必要ですし、豊かな自然の中で生きること、カラダと心の穏やかな状態をつくるために必要です。



<命を感じて、生きぬく勇気と力を与えるために…倫理教育とキャリア教育の必要性>

現在、日本は命の尊厳に関して、道徳教育で、この問題を乗り越えようとしています。他方、前述した生命に関わる現代的な問題を既に体験してきた先進国及び、都市文明の進展に伴う依存症の深刻化している中進国、国連の教育専門機関のUNESCOは、道徳を超えた倫理教育でこの問題を乗り越えようと模索しています。

経済不況及び、働くことに意義を見いだせない学生の増加に伴い、日本の文科省はキャリア教育をあらゆる教育活動全般に導入する事を提言しています。文科省は体験と、様々な人々との直接的な交流を提案しています。

UNESCO及び各国で現在、倫理教育が研究・開発されていることと文科省の近年の方針との適応があることから、将来的に日本でも倫理教育として統合され、導入される可能性があります。なぜなら、文科省はUNESCOの日本支局であり、世界各国の先端の教育を研究し、政策として導入する教育機関でもあるからです。

さて、倫理教育の目的は生命を体感し、多様性を受け入れ、自他を受容し、自他を尊重する態度の自覚です。倫理的感覚から倫理的態度の自覚が、自ら生き抜く力を得ることにつながっていきます。

どんなに、大切なことでも、“自覚”なくして、自ら生きていこうとする力を得ることは出来ません。倫理的感覚、倫理的価値、倫理的態度は育成できるものでなく、自らが体験によって気づき、獲得すべき発達課題といえます。

Lab Link は、持続可能な社会構築を目指す研究機関として、従来のエコツアーに、
倫理教育とキャリア教育、代替医療を統合した体験学習としてナチュラルツアーを開発しています。

< ナチュラルツアーの主旨 >

Lab Link は学生、社会人、高齢の方、病弱な方、どなたにでも、自らのカラダを野生の地で心地よく動かし、野生の地での深いリラクゼーションを通じて、命を体感できる体験をご提供いたします。このため、代替医療のエキスパート及び、アウトドアガイドのエキスパートをはじめ、お客様の希望に応じて、様々な分野のエキスパートが直接ご案内致します。単なる体験を知的な気づきに発展させるため、様々なエキスパートの方が人生経験を交えて、スキルや業務に関してキャリア教育に役立つ講話をし、お客様と楽しい対話を致します。



< ナチュラルツアーとエコツーリズムの違い >

エコツーリズムとは、自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした、資源が損なわれる事がないよう、適切な管理に基づく保護・保全を図り、資源の保護 + 観光業の成立 + 地域振興の統合をめざす観光です。ナチュラルツアーはこの考えを含み、参加する人を中心に考えています。ナチュラルツアーは人と自然と社会が調和し、持続可能な社会構築に貢献するサステナブルツーリズムの一つです。現在、海外の世界遺産を指定するUNESCOは、予防医学とホテル、エコツアー、教育が統合されたサステナブルツーリズムを開発しています。

1) 倫理教育及びキャリア教育とエコツーリズムの統合

自然・文化・地域の人々とのふれあいによって、自然・文化を含めた多様性を尊重する体験をとりいれます。

2) 代替医療及びエコツーリズムの統合

自らのカラダが自然であること、自然の地で、命の力を体感でき、命の尊厳を自覚する代替医療とエコツーリズムを統合しています。

3) 地方と大都市の循環型経済による統合政策

大都市の住民・学校・企業及び、地方企業家のエキスパートの方々との経済及び人的交流を通じて、大都市から地方への循環型経済をめざします。そのために、様々な業種を統合したビジネスモデルを展開します。

< ツアー理念及びカリキュラム開発 >

Lab Link は「持続可能な社会構築」を目的とするシンクタンクで、ユネスコへの NGO 登録をめざしています。東洋医学の権威を含む各種医療関係者や、国連の専門機関であるユネスコの哲学会議及びエネルギー問題に関わる教育委員をはじめ、UNESCO 及び国連大学の倫理学研究機関の関係者及び国内外の経済系・環境系・哲学系の研究者及び、様々なビジネス分野で卓越した技能で著名なエキスパートと連携しています。ナチュラルツアーは、持続可能な社会構築を理念とした統合政策の一つとして、国内外の研究者とエキスパートがともに開発しています。お客様のニーズ、目的を徹底的に市場調査した上でカリキュラムを開発しています。

< プログラムの設計 >

プロガイドとしての経験と、日本だけではなく世界の自然でシーカヤック、登山、サイクリングなどあらゆる自然を体験し、自然の厳しさと、優しさを知るスタッフが全ての参加者が野生の地で安心して、命の力を体感できるプログラムを設計致します。ツアー運営チームが現地でトライアルを実施し、国内外の研究者を含めた開発チームがトライアルを何度もチェックを繰り返した上で、ご提案いたします。



< 安全対策 >

野生の地はリスクの伴う地です。安心して、お客様が深い癒しと喜びを得るために、高い技術がガイドとセラピストに求められます。そのため、アウトドアツアー及びセラピストのエキスパートがご案内いたします。

安全対策として各種専門分野の資格取得、講習を受講し、保険加入を行っているガイドを選択します。お客様は、ツアー中に損害賠償傷害保険に加入して頂くことができます。安全とホスピタリティの確保のため、1 人のガイドに 5 名以内の少人数制を採用し、早朝から夜間にかけて、お客様のご希望に合わせてご案内いたします。

< 大自然の中でのアクティビティ >

お客様の体力や目的に応じて、海、山、川、森などの大自然の中へご案内いたします。お客様は体力的に無理なく気楽にご参加頂けます。自らの身体性を感じるために、汗と共に雄大な自然へと誘う企画を創ることも可能です。ハイキング、ピクニック、フィールド(原野)リラクゼーション、森林浴、ビーチリラクゼーション、シーカヤック、シュノーケリング、瞑想、ボディーワーク、各種セラピー、アウトドアランチ等、様々なアクティビティをご提供致します。お客様は、目的に応じて選ぶことが出来ます。同じ場所でも行く方法や同行する人により見えるものや感じるものが違ってきます。お客様の体調や体力レベル、天候に応じた内容に組み替えをご提案する場合もあります。